

夏の記憶

20年前の僕が革靴に紐を通して
10年前の僕が誰かと言い争っている
夕暮れのなかに
飛行機雲がかすれてゆく

10年後の僕が汗を拭いている
20年後の僕がブランコを
揺らしている

20年前の君が花火を見つめている
10年前の君が後ろ手に
髪をくくっている
空気が湿りはじめている
蝉の声のむこうで雷が鳴った

10年後の君がスイカを切っている
20年後の君が
こどもの浴衣をたたんでいる

20年前の僕の定期券は
20年後の君に拾われる
10年前の僕の乗った列車は
10年後の君が立つ
ホームに入ってゆく

10年後の僕が出した手紙は
10年前の君の町の郵便局に集められ
20年前の君の手を
20年後の僕がひいている

夕立のどしゃぶりの中
たまたま神がすれ違い
会わなかった君と僕が
深いお辞儀をする

